不公正な産業構造の変革と生活文化の再興

田村　正勝

（１）近代文明とは何か———文明の危機（分岐点）

合理的・科学的思考 ----→ 魔術からの解放・世俗化
工業化 ----→ 貧困からの解放
民主化 ----→ 政治的社会的抑圧からの解放

思想的制度的構造
経済主義の思想 --→ グローバル化
中央集権国家制度

自然の破壊
地域共同体の破壊
（過疎過密社会、少子高齢化社会）
精神と文化の破壊（過剰な物的豊かさ）

①環境問題
②食料・農業問題
③エネルギー問題
④所得格差問題
⑤エイズ（ＡＩＤＳ）
⑦日本の自殺　etc.

（２）日本経済の根本問題———低い「営業利益率」と「時間当たり生産性」

成熟飽和経済と価値観の転換———成長経済の終焉と「成熟飽和経済」の３つのパターン

アメリカ型——軍需産業にシフト　　*ドイツ型*——労働時間の短縮と余暇の充実
日本型——輸出にシフトと悪連鎖経済・ＧＤＰ成長に踊った日本経済

成熟飽和に到達：
米———60 年代初頭、
独———60 年代末、
日本——70 年代中葉

正規 500 万人減、 非正規 1000 万人増加人

日本型経済主義の悪連鎖

過剰設備投資⇒⇒長時間労働⇒⇒ 過剰生産⇒⇒過剰輸出⇒⇒円高・過剰マネー⇒⇒バブル経済⇒⇒バブル崩壊
⇒⇒デフレの持続　　低生産性　　繁盛貧乏・空洞化

（表１）ＧＤＰ・輸出額・消費者物価・名目賃金・実質家計消費の指数（1975 年度＝100）

年度	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2013	2015	2016	2017
ＧＤＰ	210.7	296.7	331.5	335.6	332.0	315.4	317.6	328.6	332.5	347.8
輸出額	254	251	251	312	397	407	432	432	417	471
消費者物価	155.1	167.0	177.2	180.0	176.0	175.4	175.３	175.1	174.2	173.7
名目賃金	143.8	218.7	238.2	237.6	225.3	215.0	213.1	213.5	213.7	214.1
実質家計消費	88.9	98.0	126.9	116.1	108.6	102.1	105.7	102.6	105.3	105.0

＊実質家計消費は物価上昇分を差し引いた数値消

（表２）輸出入額（兆円以下四捨五入）と貿易指数（10 年＝100）

	輸出額	輸出指数			輸入額	輸入指数			対米黒字
		金額	数量	価格		金額	数量	価格	
13 年	70	104	90	115	81	134	105	127	７３３
14 年	73	108	91	120	86	141	106	133	６７６
15 年	76	112	90	125	79	129	103	125	６８９
16 年	70	104	90	115	66	109	103	106	６８９
17 年	78	116	95	123	75	122	106	117	６９４

＊対米黒字の単位は億ドル（億ドル未満四捨五入）

有給休暇完全消化で、
＊新規雇用 190 万人追加
＊所得年間 15.6 兆円増

川上インフレ・川下デフレ　　99.7%が中小零細企業　　被雇用者の 75%を雇用　　被雇用所得の 80%超を支払

＊輸出の 50%が「ドル建て」、輸入の 70%が「ドル建て」ゆえ、円安でこの「ドル建て」の 50%と 70%との差が貿易赤字」を！

（表３） １人当たり平均年間総労働時間（日本のカッコ内は正社員の労働時間＜厚労省調査＞）

年	日本	アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オランダ
1990	2031	1834	1765	1578	1665	1451
2000	1821	1836	1700	1471	1535	1462
2005	1775	1799	1673	1431	1507	1434
2014	1729（2018）	1789	1677	1371	1473	1425

労働政策研究・研修機構『国際労働比較 2016 年データブック』より作成

１時間当たり労働生産性　ＯＥＣＤ35 か国中の 22 位、　先進国中最低で購買力平価では 42 ドル

（表４）各国の時間当たり実質賃金指数（10 年＝100、カッコ内は 00～14 年間の伸び率%）

年	日本	アメリカ	カナダ	イギリス	ドイツ	フランス
2000	99.3	77.0	83.5	70.4	84.0	75.4
2008	104.0	95.4	100.4	94.8	96.2	96.2
2013	101.3	103.7	106.1	105.7	108.1	107.1
2014	103.1（3.8）	105.1（36.4）	107.0（28.1）	107.8（53.1）	111.1（32.2）	108.8（44.2）

＊労働政策研究・研修機構『国際労働比較 2016 年データブック』より作成

売上高営業利益率：英 10%、米９%、独８%、日 4～５%

（３）金融緩和策の顛末と「川上インフレ・川下デフレ」「格差」―― countervailing power で克服！

金融緩和⇒⇒預貯金 930 兆円⇒⇒大手金融機関へ⇒⇒国債買い⇒⇒金融機関から日銀の国債買い⇒⇒預貯金の金融機関への帰還⇒⇒金融機関のファンドと海外への融資⇒⇒不動産バブル・節税目的のアパート建設・３割空き室

（表５）国内企業物価・輸出物価・輸入物価指数（2015 年＝100）

	2010 年	2013 年	2014 年	2016 年	16 年Ⅰ～Ⅱ	16 年Ⅲ～Ⅳ	17 年
消費者物価	96.5	96.6	99.2	99.9	99.8	100.0	100.4
国内企業物価	97.4	99.2	102.3	96.5	96.7	96.3	98.7
輸出物価	108.1	107.9	105.8	90.7	91.7	89.7	95.6
輸入物価	110.1	124.7	122.6	83.6	83.7	83.6	92.7

＊拮抗力策による中小零細企業の利益確保――「同業者組織」と「異業種知己業者組織」の強化

家計の金融資産：過去最高の 1832 兆円 ←→ 2 人以上世帯の預貯金ゼロ世帯 30.9%（87 年 3.3%）、単身世帯の 47.6%

（４）生活文化の再考・再興

＊ヨーロッパの労働観の変遷――労働と余暇に関する時代精神

古代（ギリシャ・ローマ）――ヘレニズム

ヘブライズムからヘレニズム（古代ギリシャヒューマニズム）へ！

スコレー（σχολη 閑暇）――→ school　テオーリア（θεωρΐα 観想的態度）――→ theory

ドイツ――週休 3 日制、夏休み（ウアラオプ）連続 4~6 週間

＊日本の労働観と余暇生活

古代（大和～平安）――日本人のふるさと・こころ：一生（所）懸命

＊天皇の宣命：清明心、明き浄き直き誠の心：ひたむき、あはれ、なさけ、みやび――→万葉文化：老若男女自由恋愛

＊＊遊びにひたむき――ex. 梁塵秘抄（1179 年）「遊びをせんとや生まれけむ」――温暖多湿な気候に恵まれ、労働をあまり必要としなかった。　＊＊万葉末期の風流：「伊勢物語」（905 年）――おとこは女に対する思いやり、あはれの情、

かすが野の若紫のすり衣しのぶの乱れかぎり知られず

＊仏教の広まり―――無常観、宿世仏教

「蜻蛉日記」(974 年)“世の中にいとものはかなく、とにもかくにもつかで、よにふるひとありけり”

――この「はかなさ」も「宿世」ゆえに諦められる

中世（鎌倉～室町）―― 室町文化の「かけ遊び」

＊宿世仏教―連だめし、かけ遊び：連歌、香道、茶道、双六、囲碁、将棋　能、etc.

＊＊あはれ、無常観、数寄者道の追求―鴨長明の出家は人生最晩年の 50 歳「方丈記」(1200 年)

“世捨て人の果てなん境地”

近世―――労働観の台頭と遊び　　儒教文化――勤勉節約

＊＊儒教のなかで「誠の儒教」を導入――武士の「葉隠れ」(1700 年山本常朝、ひたぶるの生、武士道とは毎朝毎朝死に習うもの」) の思想に矛盾しない部分の摂取 ⟶ 仕事に誠

＊＊商人もこれに習って「勤勉節約」の倫理（石田梅岩の「石門心学」)、

＊＊農民―――誠の道（天地の大父母）(尊徳の「報徳思想」)

＊＊庶民の遊芸―――稼いで遊ぶ！（元禄の上方から）――町人文化、元禄文化、黄表紙

＊＊稽古ごと―――俳諧、謡、鼓、弓、「黄表紙」：ひたすら「まねぶ」：遊里の「通」をめざす

＊＊還だめし―――双六、花札、etc. ―――非合理、情熱、「宿世」の裏返し

中国は朱子学：敬（つつしむ）の儒教、

韓国は孝の儒教

日本は誠の儒教

①芭蕉の行脚　② 江戸人口 100 万人：川柳毎月 10 万人応募　③押しやと見世物　④和算　＜ケとハレの区別が相対的＞

明治以降

＊「誠の儒教」と近代的西欧合理主義の結合　　＊＊生産力重視、仕事・企業に対する忠誠

＊＊しかし他方、伝統的農村、漁村の生活、都市生活も企業一色でない、神楽、能を創作・自演

第二次大戦後 ⟶ 高度経済成長と労働至上主義 ⟶ 企業戦士への道

＊＊工業化、都市化、地方の解体、アメリカ流の競争主義の導入、企業に対する誠　＊＊労働至上主義、

（5）来るべき社会のヴィジョンとコミュニティの再生

21 世紀社会の動向を踏まえた「来るべき社会のヴ‐ィジョン」
――「ゆとり、公正、連帯の三位一体の社会」――

1）ゆとり―――物心両面のゆとりのため（物のゆとり：とくにマイノリティの福祉が重要）

① 物のゆとり：市場の活用、行政指導をやめルール規制で透明性を！

② 心のゆとり：とくに時短・ワークシェアリングの推進が大切

2）公正

① 市場原理は「５働いた者には５を」の「交換の正義」ゆえ、弱肉強食の社会をつくる
これを修正し補完する「行政」が必要。「機会の均等」を保障し、「必要に応じて分ける」という「分配の正義」の実践が行政の要諦。　要するに機会の均等、交換の正義、分配の正義の三つの柔軟なバランスがとれた社会こそが「公正な社会」

② 労働規制（従業員の処遇改善）と環境規制は強化するべき

3）連帯

行政は税金に依存し、画一的になる、という限界 ⟶ 公正な社会は、もう一つ市民の自発性に基づく「社会的連帯」不可欠。とりわけ市民のボランティアが、結果的に行政の 限界を補完

（表６）社会を構成する３つのセクター

	担い手	誘引	機能	規範	結果
公共セクター	行政	公益	補完（公助）	平等	福祉国家の限界
共生セクター	地域社会　ＮＰＯ、労組	共益	共助（互酬）	連帯	世直し
市場セクター	企業、個人	私益	効率（自助）	自由	２極化格差社会

4）三位一体社会−−−−−「ゆとり、公正、連帯」の社会ヴィジョンを
「市場、行政、ボランティアの三位一体的社会」で推進。
＊市場主義の小泉改革の誤り、理念なき改革は単なる破壊

（6）発 想 の 転 換 に よ る 経 済 主 義 の 克 服 と 総 合 的 生 活

1）「同一価値労働・同一賃金の多様就業型ワークシェア」と「不公正な産業構造変革」のリーダーシップ
＊政労使が一体となって取り組む−−−処遇の上向きの平準化 → 生産性の向上と、家計所得の増加が可能（オランダの例、日本の例）

・うつ病−−−96 年の 43.3 万人から 08 年には 104.1 万人に
・年間自殺者が 11 年までの 13 年間 3 万人（5 万人）超
・男性に自殺者 10 万人当たり 33 人の世界最悪
＊ 有給休暇は最小⇒⇒自死率は高い日本
日本では６年６か月以上継続勤務した場合は、20 日間取得可能、実際は！！「名ばかり休暇」

02 年の政労使の協定−−−予算も付いたが、同床異夢に終わった

（表７）日本の有給休暇取得率（%）の推移 ＊厚労省「就労条件総合調査」より作成

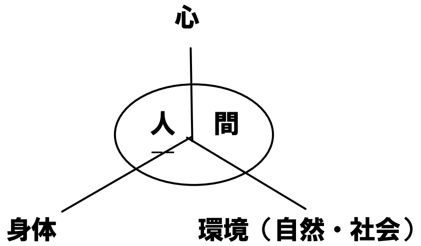
93 年	98 年	03 年	06 年	08 年	10 年	11 年	12 年
56.1	51.8	47.4	46.6	47.4	48.1	49.3	47.1

2）新 た な 認 識 方 法 と パ ラ ダ イ ム 転 換
新 し い ラ イ フ・ス タ イ ル の 要 請−−−−−−−パ ラ ダ イ ム・シ フ ト

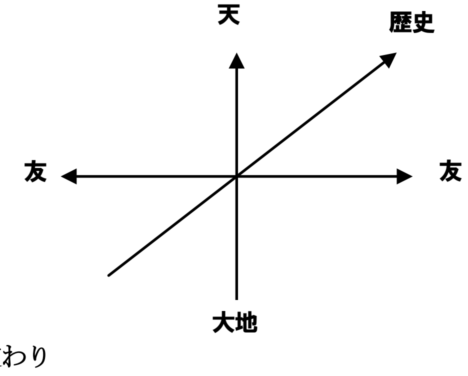
Q：経済主義のイデオロギーを克服するにはどうしたら良いのですか。
A：そのためには先ず、“ものの見方や考え方−−−”パラダイム”を転換させること、
そして　エコノミック・アニマルから人間の本来の姿に戻ること、そのために自分の生活を変えてゆくことが基本です。

<u>総 合 的 な 認 識・思 考</u>
① 数量主義（定量）思考から「定性」思考も重視へ　：　“一葉落ちて天下の秋”
② 二項対立思考から即非律へ”光と陰”
「即非律」「対偶の理」「涅槃経の教え」へ

3）正しい人間観の確立（総合的人間観）
① 心、身体、環境（自然的、社会的）の三位一体
② 理性的、工作的、遊戯的、欲求的、霊的な総合的存在
ミクロコスモス、一即一切（華厳経）



4）ホリスティック・ライフ（総合的な生活）−−−−人間の遺伝子は皆 99.99%同じ
① 家庭生活、労働生活、自由時間（余暇生活)、地域生活はペアー
② これらのバランスとしてのホリスティック生活
③ このバランスは中庸や中間ではない友−−−−柔構造のバランス
④「進歩史観」から here and now 史観へ
「ここで、今（アウグスチヌス　hic et nunc）史観」へ
;「有時而今（ウジノニコン)」(道元「正法眼蔵」)



＊＊自分自身との出会い−−−−−−自分の時間、思索
＊＊自然との出会い−−−草木、森、海、山など自然とのふれあい
＊＊「おまえ」との出会い−−−家族、親友などごく親しい者たちとの交わり
＊＊「われわれ」の出会い−−−休暇、小グループ活動、集会、労組などのアクション